



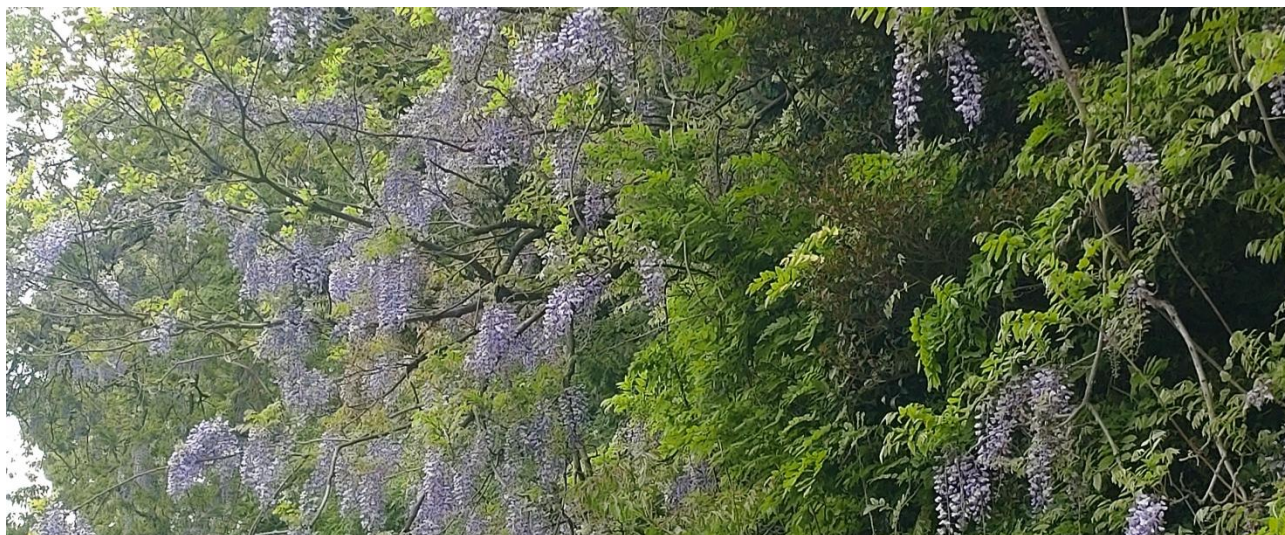
西尾いきものふれあいの里だより

4月号

2025.4.1 発行

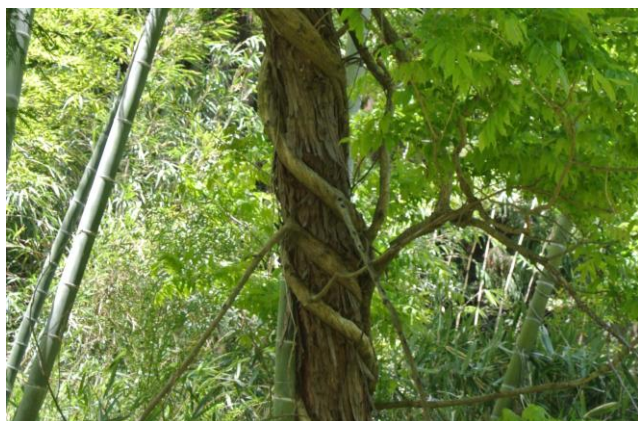
さとやま

4月の里といきもの



今年の3月は、はじめは2月に引き続き、低温の日が続きましたが、お彼岸を境に今度は高温傾向となり、初夏を思わせる気温になる日もありました。最近、春や秋の過ごしやすい日が減ってきたような気がします。4月になると気温が一気にあがり、以前はゴールデンウィークの頃見頃だった**フジ**も、4月中旬には見られるようになるのではないのでしょうか。

フジはマメ科に分類されるつる性の落葉木本です。春（4月下旬～5月上旬）に、50cmほどの長い房状の花を垂れ下げて咲きます。菖蒲池横の藤棚のものも、里の木などに絡んで咲くものも同じ種類です。山間部に多く見られる近縁のヤマフジは、つるがフジは上から見て右巻き（時計回り）なのに対して左巻き、花の房が約20～30cm程度と短めで、里では見かけません。



花は、房の上から下に向かって順に咲いていきます。マメ科の植物に共通の、蝶形花（ちょうけいか）と呼ばれる独特な形をしています。最も大きく目立つ2枚の旗弁（きべん）、側面に位置する2枚の翼弁（よくべん）、下側に位置し翼弁に隠れている、2枚の花弁が癒合して蜜腺や雄しべ、雌しべを保護している竜骨弁（りゅうこつべん）の5枚の花弁で構成されています。

花が終わると、子房が発達して大きなさやが垂れ下がり 10～15 cm程になって、秋に成熟すると堅くなります。さやの中には平たい円形の種子が数個入っており、さやが裂けると、中の種子が弾け飛ぶ「弾種散布（だんしゅさんぷ）」という仕組みで周囲に広がります。



さや



種子



クマバチ

ところで、この花はクマバチが好んで訪れます。フジの花の竜骨弁は、クマバチのような大型で力強い昆虫を想定して進化しています。クマバチが止まると、その体重で竜骨弁が押し下げられ、内部に隠れている蜜が取り出せるようになります。このとき、クマバチの体に花粉が付着し、次の花へと運ばれます。フジの花は訪れる昆虫を制限することで、効率よく受粉することができます。ブンブンと大きな羽音を立てるため、恐ろしく感じる方もいるかと思いますが、人を襲うことはほとんどありません。こんな共生関係をそっと観察してみてください。

4月にはこんな生きものも見られます

里ではいろいろなスミレが、その環境にあった場所で咲いています。白っぽいツボスミレは日当たりの良い草地などを好み、里では藤棚付近などで見られます。花が小さな壺のように見えるため、「壺堇」と名付けられました。

薄い青のタチツボスミレは、林縁を好むため、トンボの里や万灯山エリアで見られます。成長すると茎が立ち上がる特徴を持つことが、名の由来です。

紫のニオイタチツボスミレは、広葉樹林などの明るく乾燥した環境を好み、中央広場上の道や万灯山山頂付近などで見かけます。よい香りがするので、名が付けました。



ツボスミレ



タチツボスミレ



ニオイタチツボスミレ



ツマグロヒョウモン
オス



メス

暖かい日は、このスミレたちを食草とする、雌の方が美しい蝶、ツマグロヒョウモンが産卵する姿も見られます。（写真は秋頃のものですが）もともとは南方系の蝶で、世代を繰り返しながら北上し、秋頃になると見られましたが、越冬できずに姿を消していました。最近は温暖化に伴い、この地方でも越冬するようになりました。パンジーやビオラでも育つため、市街地でも見ることができます。オスは万灯山山頂で、占有行動という、見晴らしの良い草原や開けた場所で、他の蝶や昆虫を追い払うような行動を見せます。

ビオトープ付近などのよく湿った場所では、キンポウゲ科の**キツネノボタン**が咲きます。葉が牡丹（ぼたん）に似ており毒性があるので、「狐野牡丹」となったという説があります。

また、花がサギが飛んでいるように見える、サギゴケ科の**ムラサキサギゴケ**も一面に咲いています。「苔」と名がついていますがコケのなかまではありません。マメ科の別名レンゲともいう**ゲンゲ**も混じって咲いています。

ハンノキ広場やトンボの里などの少し湿った所では、シソ科の**カキドオシ**の2つ並んだ花が見られます。垣根を突き抜けるほど勢いよく伸びることから「垣通し」と名が付けました。



日当たりのよい草地には、一見タンポポに似たキク科の**オオジシバリ**が咲きます。1つの花茎にいくつかの集合花がつくこと、集合花の花数が少ないことでタンポポと見分けられます。地面に沿って茎が這うように伸び、地面をしっかりと縛るような様子に見えるため、「地縛り」と呼ばれるようになったと言われています。

里のあちこちでは、花色が濃い**ヤマツツジ**がよく見られます。花期が長く、条件によっては12月から咲きます。短く刈り込まれても花をつけるので、万灯山山頂で毎年かぎ万燈のときに刈られても、多数の花が見られます。

また、トンボの里や万灯山山頂付近では、同じツツジ科ですが、花が小さな釣り鐘型の、**ウスノキ**の花がみつかります。実が臼のような形になるため名が付けました。

アケビ科の、白い**アケビ**や黒っぽい**ミツバアケビ**の花は、里のあちこちで見られます。一本の花軸に少数の雌花と多数の雄花が垂れ下がって咲きます。花が咲いたからと言って実がなるとは限りませんが、センターのテラスの前のアケビは、この頃よく実がなります。

万灯山エリアでよく見かけるサルトリイバラ科の**サルトリイバラ**は雌雄異株です。複数の花が放射状につきますが、雌花より雄花の方が多数つきます。

万灯山山頂では、リンドウ科の**フデリンドウ**が点々と咲きます。その様子を妖精の足跡に例えられることがあります。花が日が当たると開き、曇りや雨では閉じて、つぼみと同じ筆のような形になるのが名の由来です。



すっかり暖かくなった里を、こんないきものたちを探して散策してみませんか。

4 月 の 行 事 予 定



6 日 (日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅠ ※注 1	30 名	AM9:30~11:30	当 園 職 員
13 日 (日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅡ ※注 1	30 名		

内容 : 里の竹林整備・環境学習の一環として、トンボの里の竹林でタケノコ掘りを体験します。
竹林整備の仕方、タケノコの生え方などを教えてもらい、実際にパチ鍬(くわ)を使って
採り方を学びます。

「※注 1」の講座は3月16日(日)から受付しますが、両日への申込みはできません。

20 日 (日)	春の生きものを探して 里山を散策しよう	20 名	AM9:30~11:30	高 須 桂 子
----------	------------------------	------	--------------	---------

内容 : 生きものがあふれる季節
里山で春の七草をはじめとした花や昆虫、鳥などを探して歩きましょう



5 月 の 行 事 予 定

18 日 (日)	棚田で米作りしようⅠ(田植え) ※注 2 【予備日: 5/24(土)】	60 名	9:30~11:30	当 園 職 員
----------	--	------	------------	---------

内容 ~ 里山から流れ出る冷たい水を棚田に引き込み、稲の苗を手で植えます。

「自分たちが食べるお米が、どうやってできるのか、親子で体験！」

ぬかるんで歩きにくい棚田での作業は、苦勞の多い作業ですが

「きっと、おいしいお米ができます！」

「※注 2」棚田で米作りしようⅠ~Ⅲの講座は原則3回の講座のため、

少なくとも2回以上受講した方に限り、参加特典として

「お米」をプレゼントします。

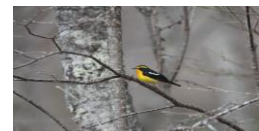


25 日 (日)	野鳥のさえずりを聞いてみよう	20 名	9:30~11:30	高 田 俊 洋
----------	----------------	------	------------	---------

内容 ~ 春の里山で野鳥を観察します。

南から渡ってきた夏の小鳥のさえずりをみなさんで聞いてみましょう。

美しい姿も観察できるかもしれません。



- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下の場合**は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候により**、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休 日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4] ◆発 行 西尾市環境部 環境保全課